ISSN1341-397X

年　　報

令和２年度

令和３年５月

公益財団法人　山形県埋蔵文化財センター

序

山形県埋蔵文化財センターは、平成５年に財団法人として創設以来、また平成 24 年からは公益財団法人として、関係諸機関の御支援・御協力をいただきながら取り組みを進めてまいりました。本年度における当センターの事業につきましては、計画した事業のすべてについて円滑に実施することができました。その概要について申し上げますと、はじめに、調査事業においては、２遺跡２件の発掘調査と延べ５遺跡の報告書作成のための整理作業を実施し、２冊の発掘調査報告書を刊行いたしました。本県における近年の発掘調査の傾向は、県公共事業の減少が引き続き見られ、国による新直轄事業の高速交通網整備に伴う事業もピークを過ぎたことから、現在進められつつある高速道路の県境部分の整備やこれからの県の公共事業等の事業量を的確に把握しつつ、調査体制の整備に努めていかなければなりません。今後とも、責任ある発掘調査を基本とした調査研究に取り組んでまいります。

次に、普及啓発事業につきましては、従来実施してまいりました『考古学＆遺跡発掘調査のお仕事参観日』をはじめ施設見学や資料の貸出など多くの活動は、新型コロナウィルス感染防止のため残念ながら中止あるいは制限せざるを得ませんでした。その中でも、ホームページによる情報発信や発掘調査遺跡において、蜜を避けて調査成果の一般公開を行いました。また、ホームページ上での公開ではありましたが、広報誌『埋文やまがた』の発行などを通して、埋蔵文化財の調査研究の成果を県民の皆様にお知らせしてまいりました。今後とも埋蔵文化財保護の重要性の周知や、埋蔵文化財を通して古代の人との心の交流の場を県民の皆さんに提供するという基本姿勢を以て、今できることを工夫して普及啓発事業を推進してまいります。

山形県埋蔵文化財センターでは、これからも「公益」という言葉の重みを職員一人ひとりが胸に刻み、次世代を担う子供達に地域の伝統文化の大切さを伝えるため、あるいは誇りと自信の持てる地域づくりの一助とするため、さまざまな機会を活用して、県民共有の文化遺産としての価値ある埋蔵文化財を後世に伝えて行けるよう、職員一同、一層研鑽を重ねていく所存であります。

令和３年３月 31 日

公益財団法人山形県埋蔵文化財センター
理事長　　武 田 啓 子

目　次

Ⅰ．管理運営概要
　1．沿　革……1
　2．組　織
　　（1）役員及び評議員 ……1
　　（2）職制及び人員 ……2
　　（3）組　織 ……2
　　（4）職　員 ……3
　3．施　設……4

Ⅱ．業務概要
　1．調査業務……5
　　（1）調査遺跡一覧 ……6
　　（2）調査遺跡の概要
　　杉沢Ｃ遺跡 ……8
　　水林下遺跡 ……12
　　上曽根遺跡 ……16
　　八幡西遺跡 ……16
　　川前２遺跡 ……17
　　野田遺跡・下中瀬遺跡 ……17
　2．普及・啓発・研究等業務
　　（1）研修等 ……18
　　（2）普及啓発
　　①センター公開事業……18
　　②考古学講座……18
　　③来所者……19
　　④調査成果一般公開……20
　　⑤職員派遣等……21
　　⑥資料貸出……22
　　⑦資料掲載許可……22
　　⑧研究紀要……23
　　⑨出版物……23
　　⑩ホームページ……23
　　（3）情報処理
　　収蔵図書データベース……23

Ⅰ　管理運営概要

1．沿　革

山形県には、土地に埋蔵された埋蔵文化財や史跡、有形文化財、民俗文化財などが数多く残されています。これらの文化財は、長い歴史の中で生まれ、育まれ、そして今日まで守り伝えられてきた貴重な県民の文化遺産であり、これを保護・活用し、次世代に確実に継承していくことが大事です。

山形県埋蔵文化財センターは、埋蔵文化財の保護と県土の開発を両立させて調和を図るため、平成５年４月に山形県の出資によって「財団法人」として設立され、平成 24 年度には「公益財団法人」に移行しました。当センターでは、埋蔵文化財の調査研究を通じて、県民の文化生活の向上と地域文化の振興に寄与することを目的として、

１．県内遺跡等埋蔵文化財の調査研究
２．埋蔵文化財の発掘調査
３．埋蔵文化財の活用と保護思想の普及

の三つを基本とした各種事業を推進しております。

平成 27 年度に新たに策定された第６次山形県教育振興計画では、『人間力にあふれ、山形の未来をひらく人づくり』を基本目標に掲げ、『「いのち」をつなぐ人』、『学び続ける人』、『地域とつながる人』の三つを目指す人間像としています。埋蔵文化財については、『主要施策 15　山形の宝の保存活用・継承』の中で、その保護と活用、ならびに（公財）山形県埋蔵文化財センターとの連携の強化が謳われています。

近年、当センターでは、埋蔵文化財の教育的価値を認識してもらう視点に立って、「発掘調査速報会（県教育委員会との共催）」や「ホームページによる情報提供」、「遺跡（発掘現場）見学や研修の受け入れ」、「考古学講座」の実施などの普及啓発活動にも力を注いでおります。

2．組　織

（1）役員及び評議員

役　員

理事長	武田啓子	山形県観光文化スポーツ部　部長
専務理事	齋藤　稔	財団常勤役員
理　事	渋谷孝雄	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館　館長
理　事	矢口俊雄	公益財団法人山形県生涯学習文化財団　専務理事
理　事	石川由美	一般社団法人山形県医師会　事務局長
理　事	遠藤健悟	山形県観光文化スポーツ部文化振興・文化財課　課長
監　事	椙野哲郎	税理士有資格者
監　事	大泉定幸	山形県観光文化スポーツ部観光立県推進課　課長

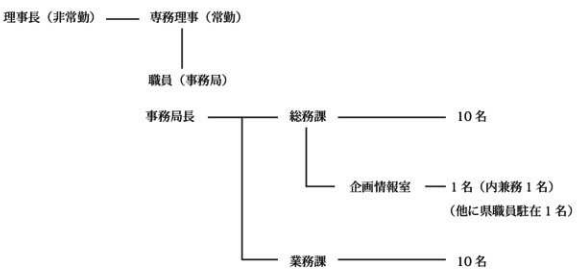
評議員	遠藤友紀	公益財団法人米沢上杉文化振興財団主任学芸員
評議員	佐藤庄一	山形考古学会　会長
評議員	大類　誠	尾花沢市文化財保護審議員
評議員	佐藤仁喜弥	特別法人山形県住宅供給公社専務理事
評議員	本間　豊	公益財団法人致道博物館理事（兼）学芸部長
評議員	木村眞一	山形県農林水産部農村整備課　課長
評議員	工藤　哲	山形県県土整備部道路整備課　課長

（２）職制及び人員

事務局長	１名
課　長	１名
室　長	（１名）
調整主幹	１名
課長補佐	（１名）
調査研究専門員	３名
専門調査研究員	５名
総務主査	１名
主任調査研究員	４名
主任主査	１名
事務主任	１名
事務員	２名
計	２０名

（３）組織

役員（理事会）



（4）職　員

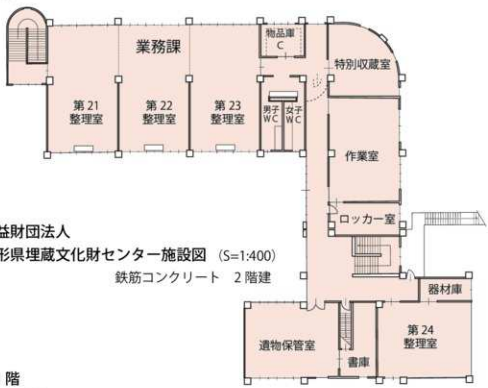
課　名	職名	氏名	所属
総務課	事務局長 （兼）総務課長・企画情報室長	黒坂雅人	財団職員
	課付調査研究専門員	齊藤主税	財団職員（公財）福島県文化振興財団出向
	総務主査	高桑弘美	財団職員
	課付専門調査研究員	齋藤　健	財団職員　宮城県多賀城市出向
	課付専門調査研究員	菅原哲文	財団職員　宮城県多賀城市出向
	課付主任調査研究員	大場正善	財団職員　宮城県多賀城市出向
	主任主査	原田英明	（3月10日退職）
	事務主任	石澤治雄	
	事務員	板垣美智子	
	事務員	川上ひろ子	
	事務員	梅津里枝	（3月1日採用）
企画情報室	駐在（埋蔵文化財調査研究専門員）（鈴木良仁）		（観光文化スポーツ部　文化振興・文化財課）
業務課	課　長	伊藤邦弘	財団職員
	調整主幹（兼）課長補佐	須賀井新人	財団職員
	調査研究専門員	氏家信行	財団職員
	調査研究専門員	小林圭一	財団職員
	専門調査研究員	植松暁彦	財団職員
	専門調査研究員	髙桑　登	財団職員
	専門調査研究員	水戸部秀樹	財団職員
	主任調査研究員	草野潤平	財団職員
	主任調査研究員	天本昌希	財団職員
	主任調査研究員	渡辺和行	財団職員

3．施　設

公益財団法人山形県埋蔵文化財センターは、平成 24 年 11 月末まで、山形県上山市弁天二丁目 15 番 1 号にて業務を行ってきましたが、施設の老朽化と防災上の問題のため、同年 12 月 1 日より、山形県上山市中山字壁屋敷 5608 番地に移転しました。

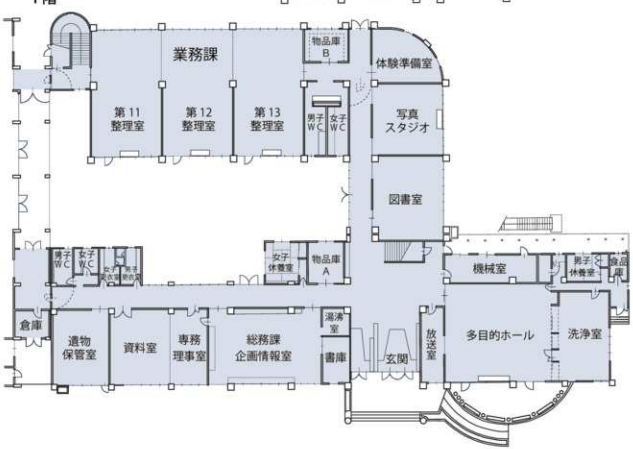
現在当所の施設は、以下の通りになります。

2階



公益財団法人
山形県埋蔵文化財センター施設図（S=1:400）
鉄筋コンクリート　2 階建

1階



Ⅱ　事業概要

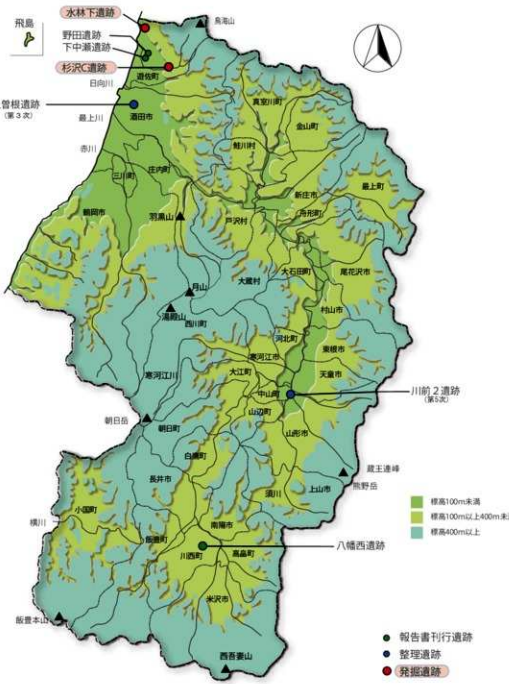
1．調査業務

令和２年度は、国土交通省および山形県から委託を受け、道路建設と農地整備事業に先だっての発掘調査と整理作業を実施しました。

発掘調査は２遺跡２件について行い、総面積は 3,860㎡になります。出土品は、土器等 26 箱が出土文化財の認定を受けました。

報告書作成のための整理作業は延べ５遺跡について実施し、その内３遺跡２冊の発掘調査報告書を刊行しました。

令和２年度　発掘調査遺跡



※本書中の「調査遺跡の概要」の記述内容は概要の報告であり、発掘調査報告書の刊行をもって本報告となります。

（1）調査遺跡一覧

No.	遺跡名	所在地	主な時代	遺跡の種類	調査期間
1	杉沢（すぎさわ）C 遺跡	遊佐町	縄文 中世・近世	集落跡	8月18日～11月25日
2	水林下（みずばやした）遺跡	遊佐町	旧石器・縄文 奈良・平安	集落跡	6月30日～11月27日
3	上曽根（かみそね）遺跡 （第3次）	酒田市	奈良・平安	集落跡	
4	八幡西（やわたにし）遺跡 （第1・2次）	川西町	奈良・平安 近世	集落跡	
5	川前（かわまえ）2遺跡 （第5次）	山形市	古墳 奈良・平安	集落跡	
6	野田（のだ）遺跡	遊佐町	縄文 奈良・平安	集落跡	
7	下中瀬（しもなかせ）遺跡	遊佐町	奈良・平安 近世	集落跡	

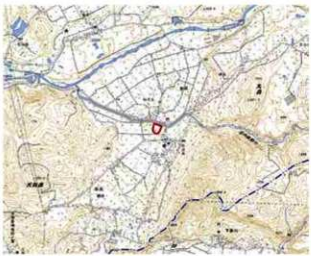
杉沢C遺跡

調査面積：平方m	文化財認定箱数：箱	起因事業〈委託者〉	業務内容			調査経費：円
			発掘	整理	報告書	
2,400	18	農地整備事業 （杉沢前田地区） 〈県農林水産部〉	○	○	—	65,000,000
1,460	8	一般国道7号遊佐象潟道路 〈国土交通省〉	○	○	—	63,886,900
		一般国道344号道路改築事業 （安田バイパス） 〈県土整備部〉	—	○	—	61,065,400
		一般国道113号梨郷道路 〈国土交通省〉	—	○	○	28,173,200
		須川河川改修 〈国土交通省〉	—	○	—	21,587,500
		日本海沿岸東北自動車道 （酒田みなと～遊佐） 〈国土交通省〉	—	○	○	28,683,600
		日本海沿岸東北自動車道 （酒田みなと～遊佐） 〈国土交通省〉	—	○	○	
3,860	26					268,396,600

水林下遺跡

杉沢（すぎさわ）C 遺跡

遺跡番号　461-145
調査次数　第1次
所在地　山形県飽海郡遊佐町杉沢字北ノ前地内
北緯・東経　39度0分39秒・139度57分58秒
調査委託者　山形県観光文化スポーツ部文化振興・文化財課　庄内総合支庁産業経済部農村整備課
起因事業　農地整備事業（経営体育成型）杉沢前田地区
調査面積　2,400㎡
受託期間　令和2年6月1日～令和3年3月31日
現地調査　令和2年8月18日～11月25日
調査担当者　小林圭一（現場責任者）・水戸部秀樹
調査協力　遊佐町教育委員会・月光川土地改良区・山形県庄内教育事務所
遺跡種別　集落跡
時代　縄文時代、中世、近世
遺構　溝跡・土坑・柱穴・河川跡
遺物　縄文土器・石製品・陶磁器・木製品・金属製品　（文化財認定箱数：18箱）



遺跡位置図（S＝1:50,000）

調査の概要

杉沢C遺跡は山形県の北西端に当たる遊佐町杉沢地区に位置する縄文時代と中・近世の複合遺跡である。鳥海山南麓の小盆地を西流する月光川支流の熊野川の左岸に立地しており、1953（昭和28）年に石囲いの中から横臥した状態で、完形の土偶が発見されたことで有名な杉沢A遺跡からは、600mほど東に離れている。また対岸には1978（昭和53）年に国の重要無形文化財に指定された番楽（山伏によって舞われる神楽）の「杉沢比山」の舞台となる熊野神社が位置している。

調査区は熊野川南岸に沿っており、全体が旧河道跡上に営まれていた。河道が埋没する過程において、縄文時代以降の活動の痕跡が確認され、縄文時代中期中葉大木8a式、後期後葉金剛寺1式（瘤付土器第Ⅱ段階）、晩期後半大洞C2～A1式の土器がまとまって出土した。中期の土器は調査区南側の黒色土、後期の土器はその北側の褐色土、晩期の土器は調査区西側の熊野川に近い褐色土から出土しており、年代が下るに従って川に近づく傾向が看取される。特に晩期は杉沢A遺跡の土偶の時期（大洞C2新式）に相当しており、同遺跡との関連性が想起される。縄文時代では石鏃等の石器類が極めて少なく、磨製石斧と磨石等が出土したのみで、晩期の土器は装飾の乏しい半精製や粗製土器が大半を占めている。川辺の作業場としての遺跡の性格が推定される。

近世では建物の柱穴と思われるピットが多数検出された。多くに柱痕跡が見られ、辛うじて残存した木材の年代を測定したところ、江戸時代前期頃の測定値（320～350年前）が得られている。調査区域に鳥海山で修行する山伏の宿坊があったことを示す絵図が残されており、それを裏付ける成果を得ることができた。また巨石を多く含む河道跡を掘り込んで　近世の井戸が構築され

ていた。木組みの井戸で、中からは箸や曲げ物などの木製品が多数出土し、江戸時代後期頃（180年前）の年代値が得られており、宿坊で利用された井戸であったと考えられる。調査区の北西側では、水路と見られる溝跡が検出されたが、その覆土から近世の陶磁器類の他に、中世の珠洲焼や青磁の破片が出土した。当地での修験道の開始が、中世に遡る可能性を示している。

まとめ

杉沢C遺跡の発掘調査では、鳥海山麓の豊かな自然環境の中で、縄文時代中期から晩期にかけて、生活が営まれていた様相が確認できた。鳥海山麓の恵まれた資源を十分に利用して、川辺での作業を執り行っていたのであろう。

中・近世では、鳥海修験の拠点として当地が機能しており、今回の発掘調査で宿坊の痕跡と推定される柱穴群を検出した。また井戸跡からは多数の木製品が出土し、修験道の生活の一端を明らかにすることができた。

写真１　調査区から鳥海山を望む

写真２　調査区南側全景

写真３　調査区西側石組遺構（SM358）検出状況

写真４　調査区西側石組遺構（SM358）上石除去状況

写真５　調査区西側縄文時代晩期土器出土状況

写真６　調査区南側井戸跡（SK406）断面の３D写真

写真７　杉沢Ｃ遺跡調査区全体写真（北：左側）

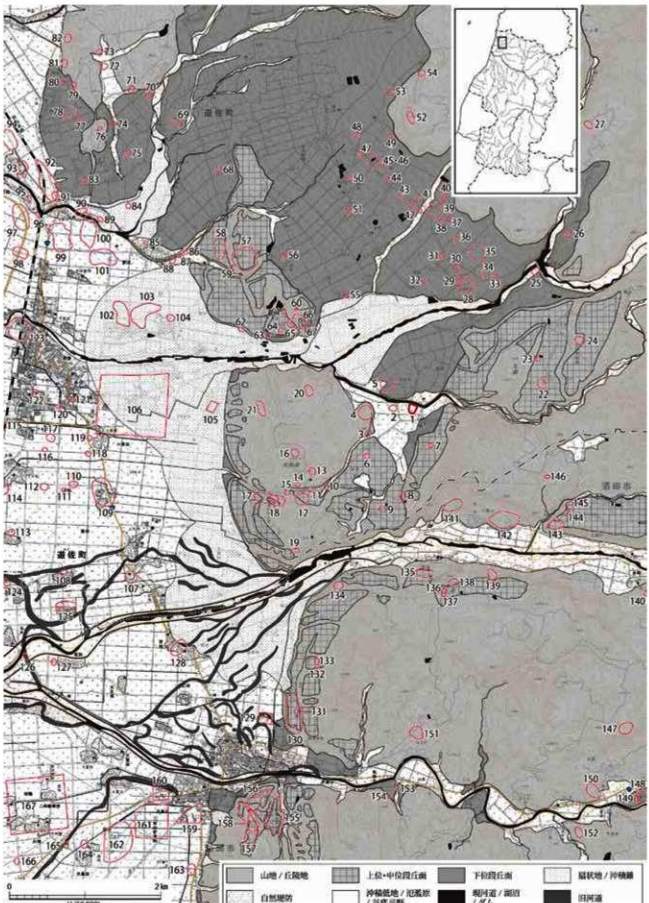


図1　杉沢C遺跡周辺の遺跡と地形分類図（1：杉沢C遺跡）

水林下遺跡（みずばやしした）

遺跡番号　461-078
調査次数　第１次
所在地　山形県飽海郡遊佐町吹浦字水林下地内
北緯・東経　39度06分19秒・139度52分53秒
調査委託者　国土交通省東北地方整備局酒田河川国道事務所
起因事業　一般国道７号遊佐象潟道路
調査面積　1,460㎡
受託期間　令和２年４月１日～令和３年３月31日
現地調査　令和２年６月30日～11月27日
調査担当者　氏家信行（現場責任者）・渡辺和行
調査協力　遊佐町教育委員会・地域生活課・山形県庄内教育事務所
遺跡種別　集落跡
時代　旧石器・奈良・平安・中世
遺構　掘立柱建物跡・溝跡・土坑・柱列・柱穴
遺物　石器・土師器・須恵器・陶磁器・木柱　（文化財認定箱数：８箱・木柱２本）

遺跡位置図（1：25,000）

調査の概要

水林下遺跡は、県の北西端にある遊佐町の女鹿（めが）地区に所在し、女鹿集落から直線距離で東へ約250ｍの小高い山中に位置する。標高は22～23ｍを測る。この場所は、鳥海山の国定公園内にあたり、現在は杉林となっているが、昔は田畑として利用されていた。東に鳥海山を望み、西には日本海が広がる。

調査は、農道の関係から調査区をＡ～Ｃ区の３つに分けてＡ区から開始した。最初に重機で遺構が確認できる深さまで表土を除去し、手作業で土を削り遺構を検出した。その後、見つかった遺構を掘り下げ、土層断面や平面、遺物の出土状況などを図面や写真に記録して完掘した。

Ａ区の調査終了後のＢ区の調査中に、旧石器時代のものとみられる石器がＢ区から出土した。そこで検証した結果、Ｂ区内に旧石器時代の存在が明らかになり、調査が必要であると判断された。これは、当初計画に無かったことから、協議を行った結果、今年度はＡ・Ｂ（旧石器含む）区の調査及びＣ区の西半分の遺構確認までを行い、Ｃ区の調査は令和３年度に行うことになった。

旧石器時代の調査は、上面の遺構の精査と記録作業を終了した後に開始した。グリッドに沿って２ｍ×２ｍを基本とする区画を適宜設定しながら、手掘りで丁寧に掘り下げて石器を検出していった、石器は全て出土地点を記録し、随時写真撮影を行い取り上げた。それと併行して、Ｃ区西半部の表土除去と遺構検出作業を進め次年度調査のための全体写真と配置図を作成した。

遺構と遺物

今回の調査で見つかった主な遺構は、掘立柱建物跡と柱列跡の他に木柱が出土した柱穴などと、当初計画に無

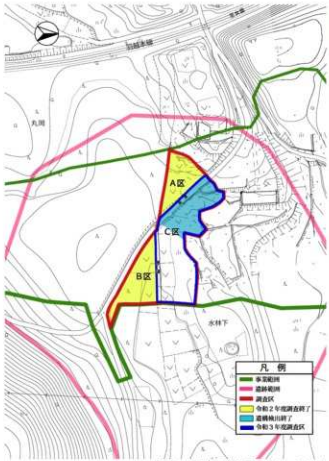


図１　調査区概要図（１：2,000）

写真１　遺跡全景（東から）

写真２　作業状況

かった旧石器時代の痕跡である。

A区からは、木柱が出土した柱穴２基（SP72・73）が見つかった。掘り方が大きくSP72は110cm×80cmで深さ80cm、SP73は100cm×90cmで深さ100cmを測る。出土した柱は径30～40cm、長さは70～80cmを測る。この２基の柱穴に繋がる穴は検出できなかったが、なにかの建物跡とも推測される。時期は穴の大きさから古代と思われるが、陶磁器の破片が出土していることから、中世以降の可能性もある。

B区では、掘立柱建物跡が２棟（SB209・210）と柱列跡２列（SA211・212）が検出されている。

建物跡は、２棟とも２間×２間の側柱の建物跡、柱列跡は直線状に４基の柱穴が並ぶ。柱穴が小さいことから小規模なものであったことが窺える。

遺物は、須恵器や土師器が多く出土し、他に木柱や石器、陶磁器などがある。

須恵器には蓋、坏、甕など、土師器は坏、甕、製塩土器がある。包含層からの出土が大半を占め、遺構からの出土は極めて少ない。土器の保存状態は悪く破片のみであったが、製塩土器の出土はこの地域で塩造りが行われていたことを窺わせる。木柱は樹種や年代測定の分析に出すことで詳細が判明すると考えられる。

旧石器時代の石器は、B区の北西側を主に上層の遺構確認面直下のローム層から出土した。その範囲は面積約50㎡で約30cmまでの深さとなる。状況は設定区画全体に石器は分布するが、南や東の端部になると希薄になる。北西隅に多くの石器が集中する場所があり、北側の次年度調査区へさらに広がることが推察できる。

出土した石器は、製品（tool）、砕片（さいへん）、剥片（はくへん）、石核（せっかく）などで総数150点を超える。その大半は砕片と剥片であり、製品は台形石器２点と錐１点で他に、二次加工を施す剥片や使用痕がみられるものも数点含まれている。剥片には、接合するものもあることから、ここで石器の製作が行われていた可能性も考えられる。

まとめ

水林下遺跡は旧石器時代と奈良・平安時代、中世の複合遺跡である。

旧石器時代は、出土した台形石器などから、後期旧石器時代の前半期頃（約３万年前）の可能性があり、接合資料などから、ここで石器が作られていたことも推測さ

れる。また、遺跡が海から直線距離で 500 mの場所にあることは、県内にある 133 箇所の旧石器時代の遺跡では希少な海沿いにある遺跡といえる。

奈良・平安時代の遺構では、掘立柱建物跡や柱列跡、柱穴などが確認された。製塩土器の出土は塩造りが行われていたことを想起させる。須恵器や土師器の特徴などから、9世紀頃の集落跡と考えられる。但し、中世以降の陶磁器なども出土していることから、この時期の遺構も含まれている可能性がある。

次年度の調査で、さらに詳細が判明すると思われる。

写真3　SB209 掘立柱建物跡（南から）

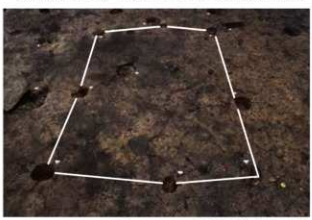


写真4　SB210 掘立柱建物跡（西から）

写真5　SP73 の土層断面と木柱の出土状況（西から）

写真6　平安時代の須恵器（蓋・壺・甕）

写真7　平安時代の土師器（坏・甕・製塩土器）

写真8　旧石器時代の石器（砕片・剥片）

写真9　旧石器時代の石器（台形石器・錐）

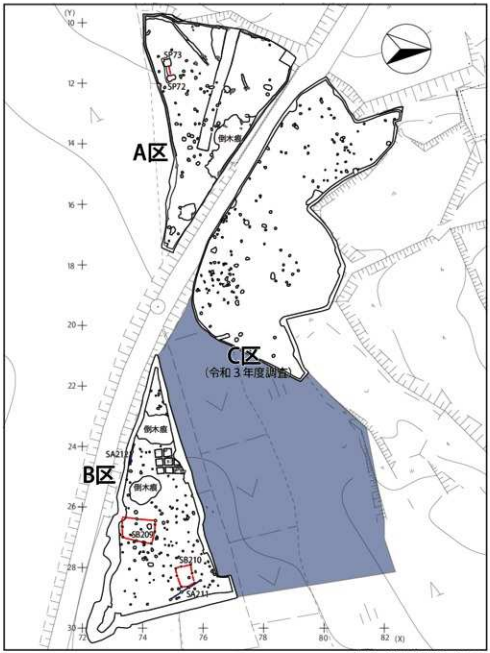


図２　遺構配置図（1:500）

写真 10　SA211 柱列跡
（南から）

写真 11　SA212 柱列跡
（東から）

写真 12　石器出土状況

写真 13　石器出土状況

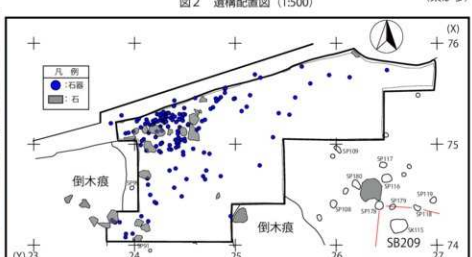


図３　石器分布図（1:150）

上曽根（かみそね）遺跡（第３次）

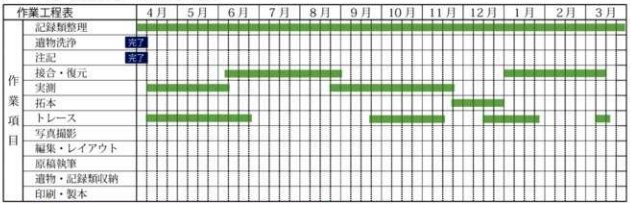
遺跡番号　204-076
所在地　山形県酒田市上野曽根字上中割
調査委託者　山形県庄内総合支庁建設部道路計画課
起因事業　一般国道 344 号道路改良事業
受託期間　令和２年４月１日～令和３年３月 31 日
現地調査　令和元年６月４日～ 12 月６日
調査担当者　高桑　登・須賀井新人・小林圭一・水戸部秀樹
遺跡種別　集落跡
時代　奈良時代・平安時代・近世

接合・復元

実測

拓本

トレース



八幡西（やわたにし）遺跡（第１・２次）

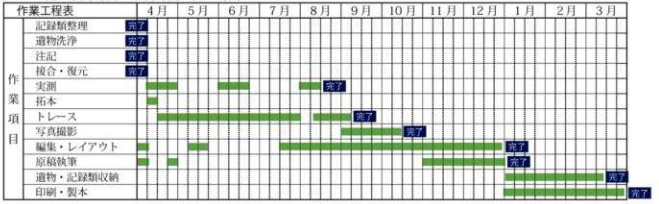
遺跡番号　382-172
所在地　山形県東置賜郡川西町大字西大塚字因幡一他
調査委託者　国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所
起因事業　一般国道 113 号梨郷道路事業
受託期間　令和２年４月１日～令和３年３月 31 日
現地調査　平成 28 年５月 16 日～ 12 月 16 日（第１次）
　　平成 29 年５月 12 日～９月 22 日（第２次）
調査担当者　草野潤平
遺跡種別　集落跡
時代　奈良時代・平安時代・江戸時代

実測

トレース

写真撮影

編集・レイアウト



川前（かわまえ）２遺跡（第５次）

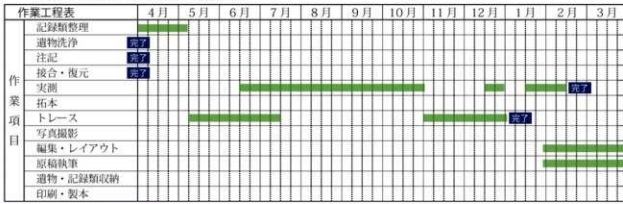
遺跡番号　201-244
所在地　山形県山形市大字中野目字赤坂他
調査委託者　国土交通省東北地方整備局山形河川国土事務所
起因事業　須川河川改修事業
受託期間　令和２年４月１日～令和３年３月31日
現地調査　平成30年６月６日～11月２日（第５次）
調査担当者　天本昌希
遺跡種別　集落跡
時代　古墳時代・奈良時代・平安時代

記録類整理

実測

実測（写真解析）

トレース



野田（のだ）遺跡・下中瀬（しもなかせ）遺跡

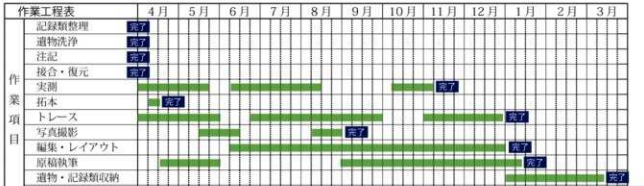
遺跡番号　461-210（野田遺跡）　461-209（下中瀬遺跡）
所在地　山形県飽海郡遊佐町北目字野田（野田遺跡）
　　山形県飽海郡遊佐町北目字下中瀬（下中瀬遺跡）
調査委託者　国土交通省東北地方整備局酒田河川国道事務所
起因事業　日本海沿岸東北自動車道（酒田みなと～遊佐）
受託期間　令和２年４月１日～令和３年３月31日
現地調査　平成29年６月１日～11月29日
調査担当者　植松暁彦
遺跡種別　集落跡
時代　奈良時代・平安時代・江戸時代

作業風景

トレース

写真撮影

編集



2．普及・啓発・研究等業務

（1）研修等

全国埋蔵文化財法人連絡協議会事業

ア　総会

期　日　　令和２年６月11日

新型コロナウイルス感染症予防からオンラインにて開催

イ　ブロック会議

新型コロナウイルス感染症予防のため中止

ウ　研修会

新型コロナウイルス感染症予防のため中止

（2）普及啓発

①センター公開事業

ア　なつやすみ「子どもミュージアム」

平成29年度より、埋蔵文化財センター単独事業として実施してきたが、今年度は新型コロナウイルス感染症予防のため中止した。

イ　考古学＆遺跡発掘調査のお仕事参観日

平成27年度まで実施してきた「埋蔵文化財参観デー『埋文まつり』」に代わるものとして、平成30年度から再開したが、今年度は新型コロナウイルス感染症予防のため中止した。

ウ　令和２年度　国宝土偶講演会＆山形県発掘調査速報会

山形県主催、（公財）山形県埋蔵文化財センター共催

センターの黒坂雅人事務局長による『「縄文の女神」の誕生について～舟形町西ノ前遺跡の発掘調査を語る～』の講演、並びにセンターが令和２年度に発掘調査を行った２遺跡の調査成果と、山形市、上山市、大石田町の各教育委員会による発掘調査成果を報告した。

期　日　　令和３年３月７日（日）

会　場　　山形県生涯学習センター　遊学館　２階ホール

内　容　　講演並びに調査成果の概要をプロジェクターを使って紹介した。

②考古学講座

ア　特別講演会

職員研修としての講演会を一般にも公開し、「考古学講座」として実施してきたが、今年度は新型コロナウイルス感染症予防のため中止した。

イ　センター談話会

センター職員による個人研究の発表の場として、一般参加者と共に勉強してきたが、今年度は新型コロナウイルス感染症予防のため中止した。

③来所者

ア．見学・研修等

No.	来所者	期日	人数	内容
1	上山市教育委員会　職員	7月2日	1	施設利用（赤外線スキャナーによる遺物観察）
2	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館　職員	7月10日	2	施設利用（写真スタジオ・写真機材）
3	米沢市上杉博物館　職員	7月13日	1	施設利用（写真スタジオ・資料室）
4	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館　職員	7月14日	2	施設利用（写真スタジオ・写真機材）
5	個人（川西町）	7月15日	1	施設利用（一日研修）
6	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館　職員	7月30・31日	2	施設利用（写真スタジオ・写真撮影）
7	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館　職員	8月5・6日	2	施設利用（写真スタジオ・写真撮影）
8	個人（山形市）	8月13日	1	施設見学
9	寒河江市教委樹委員会　職員	9月16日	1	施設利用（出土遺物鑑定）
10	個人（宮城県）	9月23日	1	施設見学
11	個人（上山市）	10月9日	3	施設見学
12	東北芸術工科大学　学生	10月28日	1	施設見学
13	個人（南陽市）	11月30日	2	施設見学
14	米沢市教育委員会　職員	12月8日	1	施設利用（赤外線スキャナーによる遺物観察）
15	南陽市教育委員会　職員	12月11日	1	施設利用（写真スタジオ・写真機材）
16	個人（山形市）	1月6日	3	施設見学
17	個人（山形市）	1月26日	2	施設見学
18	長井市教育委員会　職員	2月2日	1	施設利用（出土遺物鑑定）
19	酒田市教育委員会　職員	2月10日	1	施設見学

イ．図書閲覧

No.	来所者	期日	閲覧目的
1	個人（長野県）	9月15日	縄文から弥生への変化調査
2	秀明大学教育研究所　教員	2月10日	岩手県南部の縄文晩期の装飾品に係る調査

ウ．資料調査

No.	来所者	期日	対象遺跡
1	東北大学　大学院生	7月6日～8日	境興野遺跡
2	東北大学　大学院生	9月9日～11日	山海窯跡群、下長橋遺跡
3	秀明大学教育研究所　教員	9月9日	宮内遺跡
4	秀明大学教育研究所　教員	9月18日	宮内遺跡
5	愛知学院大学　大学院生	10月27日	弓張平B遺跡、月山沢遺跡
6	駒沢大学　学生	11月12日	泉森窯跡、泉森南窯跡
7	個人（福島県）	11月20日	中野目Ⅱ遺跡
8	福井県陶芸館 福井県越前古窯博物館　職員	2月17日	藤島城跡
9	岩手大学　教員	3月17日	百刈田遺跡、上竹野遺跡ほか

④調査成果一般公開

No.	市町村	遺跡名	公開期間	遺跡種別	見学者数
1	遊佐町	杉沢C遺跡	11月9日～13日	集落跡	11
2	遊佐町	水林下遺跡	11月9日～13日	集落跡	25

⑤職員派遣等

No.	依頼者名	派遣場所	派遣職員	期日	内容
1	河北郷土史研究会	河北町サハトベに花	天本昌希	5月16日	谷地城跡の発掘調査報告
2	山辺町教育委員会	山辺町役場	黒坂雅人	6月3日	安達峰一郎博士顕彰会理事会
3	公益財団法人都山市文化・学び振興公社	大安場史跡公園	草野潤平	7月26日	大安場史跡公園第1回企画展記念講演会 講師
4	酒田市教育委員会	酒田市役所中町庁舎	植松暁彦	8月27日	酒田市文化財保護審議会
5	寒河江市教育委員会	寒河江市文化センター	高桑　登	9月5日	令和2年度寒河江市文化財フェア　講師
6	山形県	山形県庁	高桑弘美	9月16日	山形県文化財保護審議会
7	寒河江市教育委員会	寒河江市立図書館	高桑　登	9月23日	慈恩寺調査検討委員会
8	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	須賀井新人	9月27日	第22期考古学セミナー　講師
9	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	水戸部秀樹	10月11日	第22期考古学セミナー　講師
10	山形市教育委員会	山形市役所	高桑弘美	10月15日	令和2年度 第1回山形市文化財保護委員会
11	天童市教育委員会	愛宕神社	高桑　登	10月28日	天童古城発掘調査指導
12	寒河江市教育委員会	寒河江市文化センター	高桑　登	1月20日	慈恩寺調査検討委員会
13	山形市教育委員会	山形市役所	高桑弘美	2月2日	令和2年度 第2回山形市文化財保護委員会
14	山形県観光文化スポーツ部文化振興・文化財課	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	伊藤邦弘	2月12日	令和2年度第2回運営協議会
15	山形市中央公民館	山形市中央公民館	小林圭一	2月19日	地域と共に考えるまちづくり講座　講師
16	独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所	福井市地域交流プラザ	高桑　登	2月20日 ～21日	日本中世における石の土木史研究会 研究報告
17	酒田市教育委員会	酒田市役所	植松暁彦	2月22日	第2回酒田市文化財保護審議会
18	中山町教育委員会	中山町中央公民館	伊藤邦弘	2月22日	中山町文化財保護審議会
19	山形県観光文化スポーツ部文化振興・文化財課	山形県生涯学習センター遊学館	黒坂雅人 氏家信行 水戸部秀樹	3月7日	令和2年度国宝土偶講演会& 山形県発掘調査速報会　講師

⑥資料貸出

No.	貸出先	借用目的	貸出期間	資料名	数量
1	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	企画展図録「水木田遺跡と縄文時代中期前半の山形」掲載のため	7月9日～12月17日	板橋1遺跡・高瀬山遺跡ほか5遺跡	125
2	山形県立博物館　職員	調査・研究のため	8月21日～9月30日	水木田遺跡	73
3	米沢市上杉博物館	特別展「米沢城」展示のため	8月24日～12月4日	米沢城跡	2
4	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	参考資料として使用	8月25日～9月30日	思い川A遺跡・嶽山遺跡ほか4遺跡	写真資料19
5	寒河江市教育委員会	寒河江市埋蔵文化財フェア展示のため	9月1日～9月17日	上の寺遺跡	56
6	個人（福島県）	後三年合戦沼棚公開講座「北縁の古墳文化とその交流 - 横手盆地を中心に -」に使用するため	10月3日	下柳A遺跡 渋江遺跡	3
7	個人（米沢市）	県立うきたむ風土記の丘考古資料館　第22期考古学セミナーで使用するため	10月18日	墓窪遺跡・谷地遺跡・空沢遺跡	10
8	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	参考資料として使用	10月28日～11月2日	谷地遺跡・墓窪遺跡・ほか4遺跡	6
9	最上義光歴史館	常設展示Ⅲ「発掘速報！山形城瓦ヒストリー」展示のため	11月11日～4月11日	城南一丁目遺跡 山形城三の丸跡	9
10	最上義光歴史館	常設展示Ⅲ「発掘速報！山形城瓦ヒストリー」展示のため	11月11日～4月11日	泉森窯跡・小松原窯跡・山形城三の丸跡	写真資料8
11	公益財団法人　致道博物館	創立70周年記念「庄内探求モノがたり」展示のため	11月30日～2月14日	生石2遺跡・玉作1遺跡・助作遺跡	写真資料5
12	公益財団法人　致道博物館	創立70周年記念「庄内探求モノがたり」展示のため	12月10日～2月22日	生石2遺跡・玉作1遺跡ほか5遺跡	26
13	にかほ市教育委員会	郷土史市民講座の資料として使用	1月14日～1月18日	吹浦遺跡	2

⑦資料掲載許可

No.	許可先	借用目的	資料名	数量
1	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	第28回企画展図録「水木田遺跡と縄文時代中期前半の山形」掲載のため	板橋1遺跡・高瀬山遺跡ほか5遺跡	125
2	佐賀県立吸収陶磁文化館	特別企画展「柴澤コレクション」図録に掲載のため	亀ヶ崎城跡	1
3	寒河江市教育委員会	寒河江市埋蔵文化財フェア「慈恩寺上の寺～慈恩寺の古代・中世が見える遺跡」展示のため	上の寺遺跡	4
4	米沢市上杉博物館	特別展「米沢城」の展示及び展示解説図録掲載のため	米沢城跡	4
5	愛知県民	「古文化探叢第86号」掲載のため	生石2遺跡	1
6	岩手県民	石造物研究会　第17回研究会資料集掲載のため	上の寺遺跡	2
7	株式会社　敬文舎	安斎正人著『縄紋時代史　下』掲載のため	生石2遺跡	1
8	新潟県民	論文の挿図に使用するため	助作遺跡	1
9	一般社団法人 Plenus 米食文化研究所	Plenus 米食文化研究所ホームページコンテンツ「米と知育文化　山形篇」に使用するため	生石2遺跡	1
10	米沢市上杉博物館	情報ライブラリー映像「米沢城」において、米沢城の障子堀を説明するため	米沢城跡	2
11	木簡学会	会誌『木簡研究』の電子化およびインターネット公開のため	今塚遺跡・大坪遺跡・亀ヶ崎城跡ほか14遺跡	22

⑧研究紀要

『研究紀要』第 13 号に掲載した論文のタイトルと執筆者は以下の通りです。

・中野目Ⅱ遺跡の古墳時代中期の鍛冶工房について…… 天本昌希

・山形城三の丸跡の「瓦投棄土坑」について…… 小林圭一・色摩優吾

⑨出版物

ア．一般公開資料

書　名	発行年月日
杉沢Ｃ遺跡現地公開資料	2021 年 11 月 9 日
水林下遺跡現地公開資料	2021 年 11 月 9 日

イ．調査報告書

シリーズNo.	書　名	発行年月日
242	八幡西遺跡第１・２次発掘調査報告書	2021 年 3 月 31 日
243	野田・下中瀬遺跡発掘調査報告書	2021 年 3 月 31 日

ウ．その他

資料名	発行年月日
令和２年度年報	2021 年 5 月 6 日
研究紀要　第 13 号	2021 年 3 月 31 日

⑩ホームページ

主な項目と内容は以下の通りです。

・センター概要	センターの紹介や、情報公開制度に基づいた、センター情報の提供
・発掘調査遺跡一覧	発掘調査遺跡や整理作業中の遺跡の紹介
・発掘調査速報	調査期間中、遺跡ごとの調査状況を毎週更新して紹介
・イベント情報	埋蔵文化財センター考古学講座、調査説明会、各種イベント情報の提供
・センター刊行物案内	調査報告書、発掘調査説明会資料、研究紀要などの刊行物の紹介
・埋文やまがた	web 版広報誌「埋文やまがた」の紹介、およびバックナンバーの閲覧とダウンロード
・発掘調査遺跡地図	埋蔵文化財センターがこれまで発掘調査し報告書を刊行した遺跡の紹介

（3）情報処理

収蔵図書データベース	新収蔵図書 1,652 冊のデータ入力実施（File Maker Pro 使用）

ISSN 1341 − 397X

年　報

令和２年度

2021 年 5 月 6 日　　発行

発　行　　公益財団法人　山形県埋蔵文化財センター
〒 999-3246
山形県上山市中山字壁屋敷 5608 番地
℡　023-672-5301（代）

Yamagata Archaeology Center

当センターの記章としているこの図柄は、
Yamagata
Archaeology
Center
の３つの頭文字をあしらったものです。特にＹは、国宝「縄文の女神」をイメージしています。